

2018年上期業種別部会シンポジウム

# 2017年の回顧と2018年の展望

いま求められる新たな視点は

2018年3月1日  
運輸サービス部会

# 運輸サービス部会の対象業界



物流



航空貨物



海運



航空旅客



旅行・ホテル



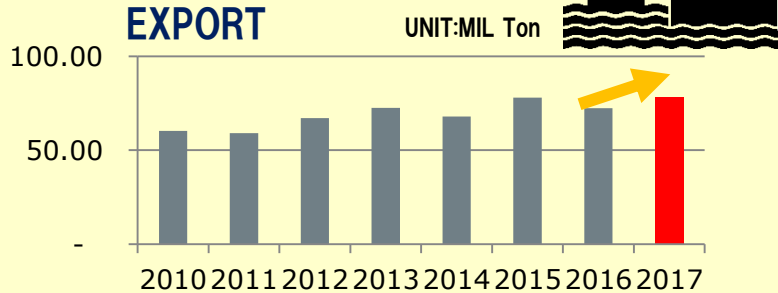
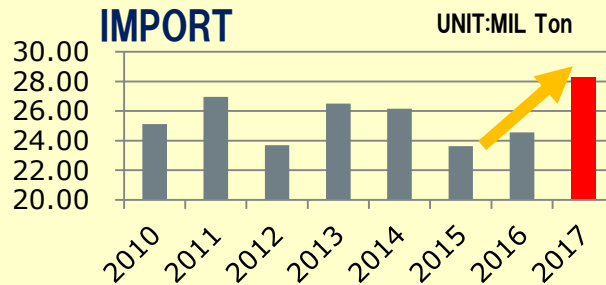
通信IT



物流

## 2017年回顧

### ● サントス港の貨物扱い量が前年を上回る



## 2018年展望

- 税関ストライキの動向に注視が必要
- (海外引越) 駐在員数が増加に転じる



**木材規制の注意**  
法令に従わない場合

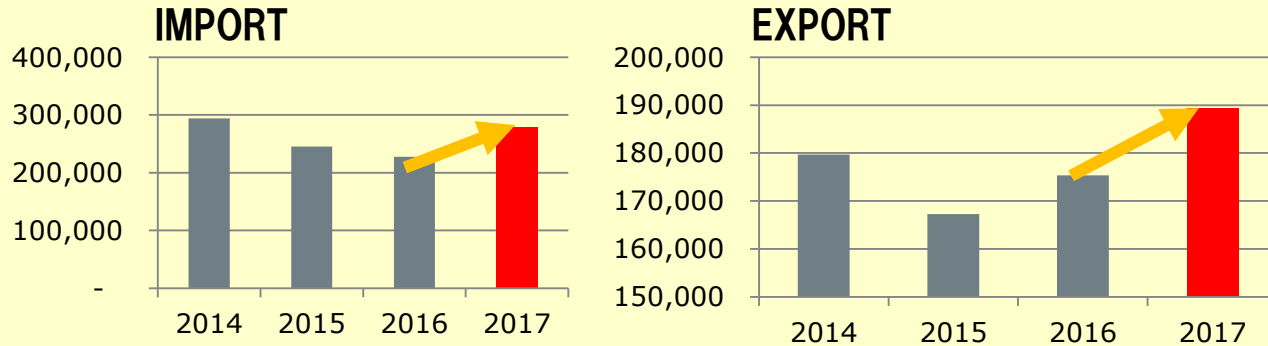
出典元：MINISTERIO DOS TRANSPORTES



## 航空貨物

## 2017年回顧

### ● 主要 2 空港での比較 (GRU・VCP) ※1-12月実績 (UNIT:トン)



## 2018年展望

- 輸出入とも物量増加にて推移予測
- 需要増によるスペース不足、運賃上昇への懸念

## 空港インフラの拡充進む



### 既に民営化されている空港

グアルーリョス  
 ビラコポス / コンフィンズ  
 ガレオン / ブラジリア  
 ビトリア / クリチバ  
 ゴイアニア / レシフェ

### 2018年1月より民営化

サルバドール  
 フォルタレーザ  
 ポルトアレグレ  
 フロリアノポリス

(数値出典元 : GRU AIRPORT CARGO, VCP AEROPORT , INFRAEO CARGO)



# 海運

## 2017年回顧

◆ コンテナ輸送は、需給バランス改善で市況は回復傾向。主要コンテナ船社は合従連衡・アライアンスの再編でサービスの拡充・生き残りを図る。

**邦船3社(日本郵船、商船三井、川崎汽船)はコンテナ・ターミナル部門を統合、2018年4月より新会社ONE(Ocean Network Express)の下に新サービスを開始予定。**

◆ 完成車輸送は、国内需要低迷で輸出にドライブ。特に亜国向け輸出が急増、同国との輸出入量のアンバランス拡大。

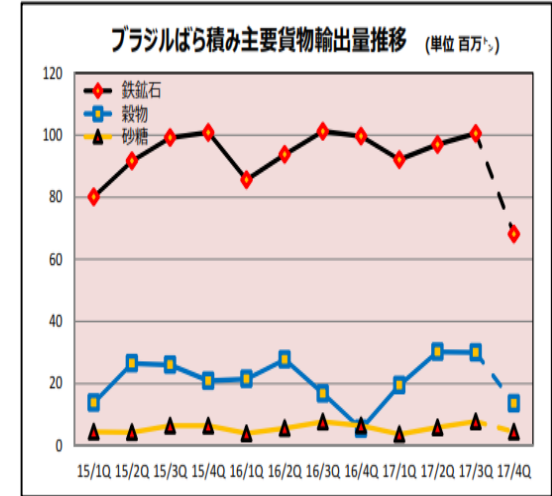
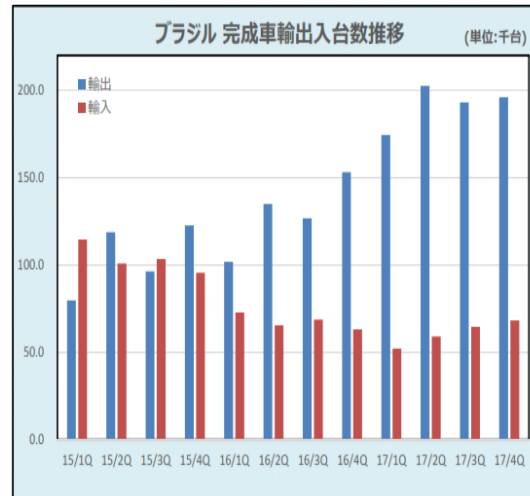
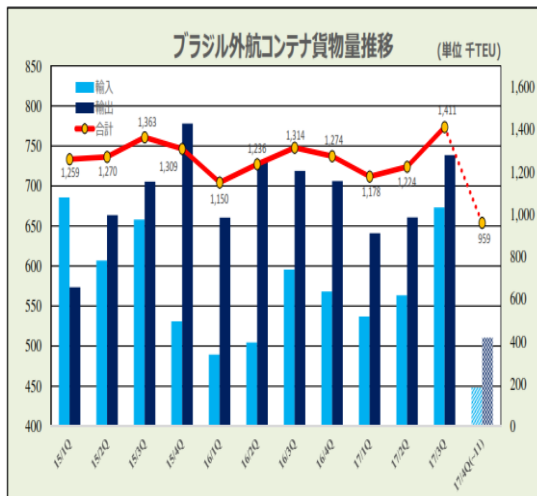
◆ ドライバルク(ばら積み)輸送は、荷動き増加と新造船供給量の減少で需給バランスはやや改善。特に大型・中型船は中国・欧州向け資源・穀物トレード増が運賃修復に寄与。

## 2018年展望

◆ コンテナ輸送は、南米東岸航路の需給バランスに大きな変化は見込まれず、運賃は2017年並みに推移?

◆ 完成車輸送は、伯亜経済の回復を中心に、輸出入量とも引き続き緩やかな伸びを見込む。

◆ ドライバルク(ばら積み)輸送は、世界経済回復のペースは2017年比下落と見られるも、引き続き資源穀物輸送需要増に支えられ市況の緩やかな回復を見込む。





## 航空旅客

### 2017年回顧

- ▶ 国内線は、**有償旅客キロは対前年+3.0%、提供座席キロは同+1.2%**で、**利用率は+1.4pt上昇**して81.3%となり、年間を通して堅調な実績を維持した（2017年1月～11月計）。
- ▶ 国際線は、ブラジル系航空会社計で、**有償旅客キロは対前年+12.2%、提供座席キロは同+10.5%、利用率は+1.3pt上昇**して85.0%となり、旺盛な需要が続いた（2017年1～11月計）。
- ▶ 世界的に日本への観光が注目されている中、ブラジルからの訪日外客数は、対前年+18.2%で大きく伸びているものの、人数規模は未だ月3,500人程度である（2017年1月～10月計）。

### 2018年展望

データ元：ANAC（ブラジル民間航空庁）、JNTO（日本政府観光局）

- ▶ 国内線は、2017年に続き2018年も緩やかに回復すると思われるものの、大統領選挙の影響で旅客移動の鈍化が懸念される。
- ▶ 国際線は、2016年のオリパラ以降に運休や撤退が相次いだが、2018年はLATAMによる新路線開設（GRU-BOS）、エミレーツ航空の増便（GRU-DXB）等、再び路線拡充の動きがある。
- ▶ ブラジルでは日系移民110周年記念イベント、アルゼンチンでは2018年にG20サミットやユースオリンピック大会等の政治・スポーツ分野での大イベントが開催されるため、ブラジルをはじめとした南米への航空需要の増加が期待される。



- ▶ **サンパウロ市内とグアリュウリョス空港間のアクセス鉄道は、2018年3月末もしくは4月初旬に開業する予定。**尚、LUZ駅－空港間の直通電車もあり、所要時間は約35分。
- ▶ **米ボーイング社によるエンブラエル社買収の報道があるが、ブラジル政府は容認しない姿勢を示している。**（参考）日本の航空会社によるエンブラエル機保有数：2018年2月末現在  
日本航空グループ 29機、フジドリームエアラインズ 11機、計40機



## グアリュージョス空港とサンパウロ市内間の空港アクセス鉄道 (建設中)



- Engenheiro Goulart からグアリュージョス空港の間に敷設。
- CPTM 12号線のBrásから直通運転の予定（1日に数本はLuzから直通運転あり）
- 空港駅はターミナル1の近くにでき、各ターミナルへは巡回バスで移動（徒歩可）



## 参考: ブラジル国際線の月別輸送実績 (2017年版・1日当たり)

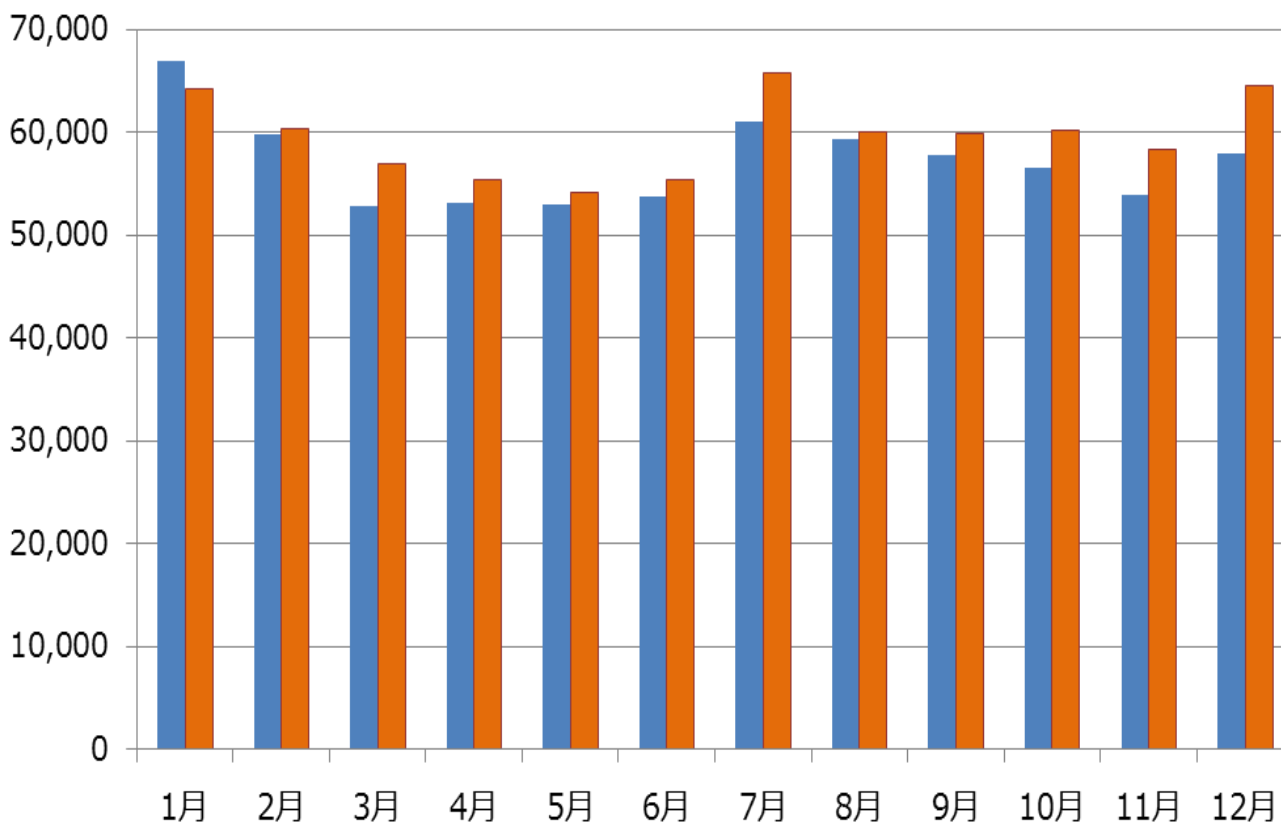
- 需要が最も多い月は12月。
- 1月は前年割れの実績となったが、2月以降は全ての月で前年実績を上回った。

月	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1月	1,989,581	64,180
2月	1,691,570	60,413
3月	1,763,295	56,880
4月	1,661,745	55,392
5月	1,678,971	54,160
6月	1,660,290	55,343
7月	2,040,943	65,837
8月	1,858,820	59,962
9月	1,796,978	59,899
10月	1,867,814	60,252
11月	1,751,717	58,391
12月	1,998,775	64,477
計	21,760,499	59,618

単位: 人

\*青棒は前年実績人数

データ元: ANAC



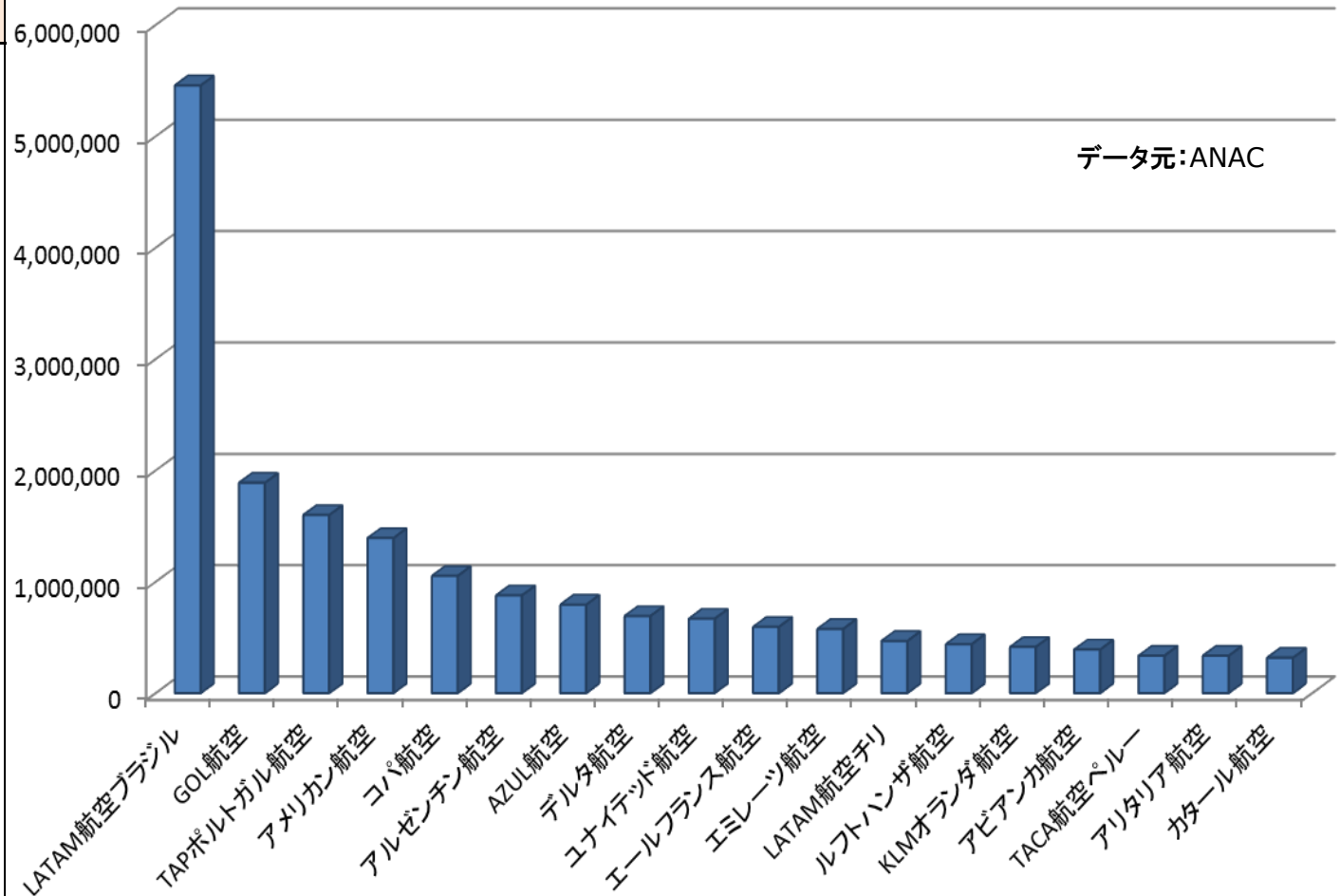




# 参考: ブラジル国際線の会社別輸送実績 (2017年版 30万人以上)

➤LATAM航空ブラジルが圧倒的に多い。GOL航空も年々実績を拡大

航空会社	有償旅客数 (人)
LATAM航空ブラジル	5,457,357
GOL航空	1,889,295
TAPポルトガル航空	1,599,461
アメリカン航空	1,392,439
コパ航空	1,052,262
アルゼンチン航空	878,168
AZUL航空	794,658
デルタ航空	692,329
ユナイテッド航空	668,257
エールフランス航空	594,805
エミレーツ航空	576,504
LATAM航空チリ	468,852
ルフトハンザ航空	439,602
KLMオランダ航空	414,909
アビアンカ航空	391,807
TACA航空ペルー	335,697
アリタリア航空	335,697
カタール航空	317,746

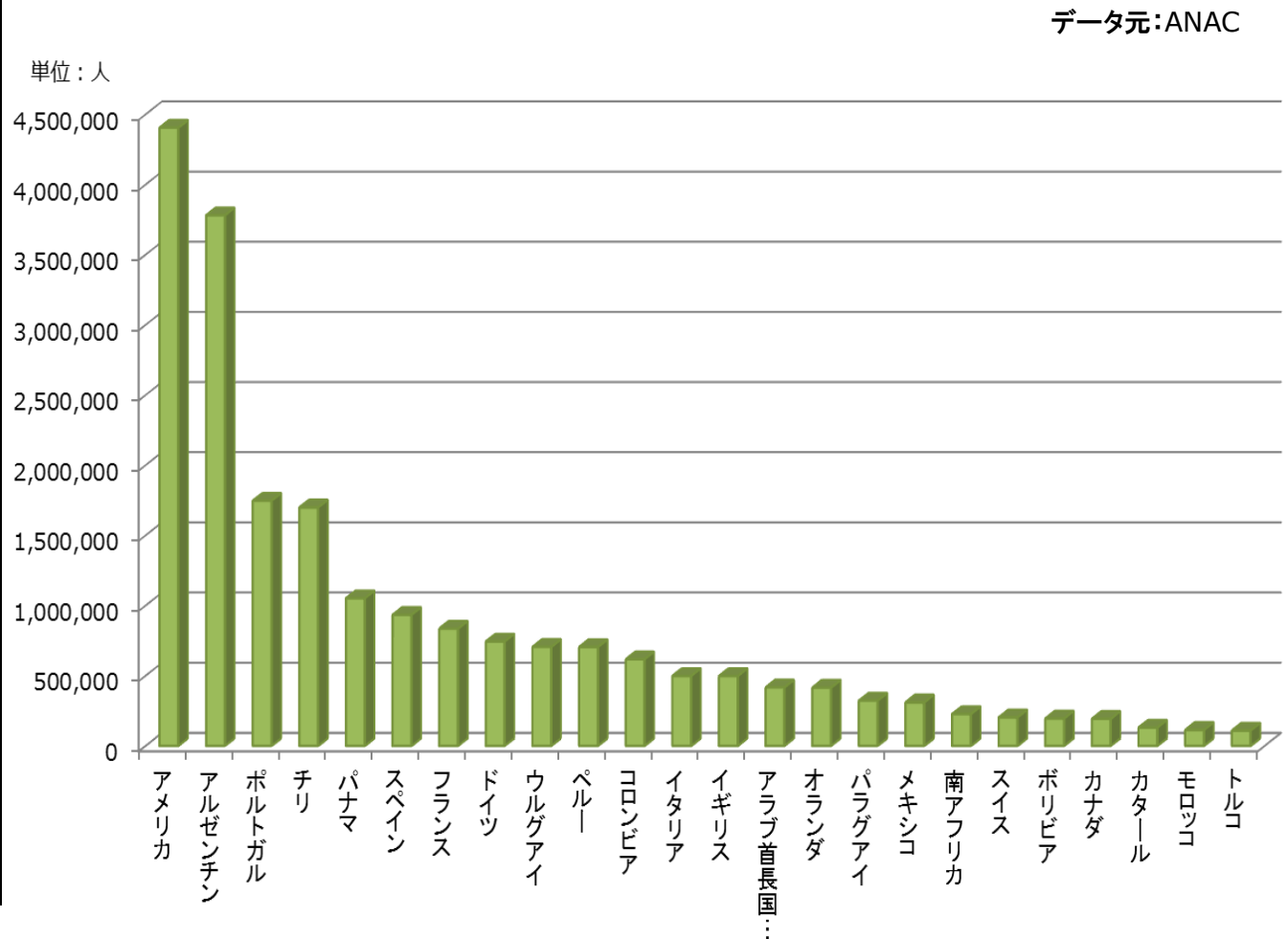




## 参考: 対ブラジル2国間の輸送実績 (2017年版 年間10万人以上)

- 米国との2国間の航空需要が圧倒的に多く、全体の20.2%を占めている。
- 移民政策等の歴史的背景から、欧州諸国との旅客流動は大きい。

順位	国名 (ブラジルとの2国間)	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)	シェア (%)
1	アメリカ	4,405,011	12,069	20.2
2	アルゼンチン	3,781,563	10,360	17.4
3	ポルトガル	1,746,910	4,786	8.0
4	チリ	1,699,200	4,655	7.8
5	パナマ	1,052,208	2,883	4.8
6	スペイン	934,246	2,560	4.3
7	フランス	835,431	2,289	3.8
8	ドイツ	743,853	2,038	3.4
9	ウルグアイ	705,488	1,933	3.2
10	ペルー	704,838	1,931	3.2
11	コロンビア	616,764	1,690	2.8
12	イタリア	498,244	1,365	2.3
13	イギリス	497,852	1,364	2.3
14	アラブ首長国連邦	416,338	1,141	1.9
15	オランダ	414,909	1,137	1.9
16	パラグアイ	322,350	883	1.5
17	メキシコ	310,089	850	1.4
18	南アフリカ	226,459	620	1.0
19	スイス	203,539	558	0.9
20	ボリビア	195,611	536	0.9
21	カナダ	193,096	529	0.9
22	カタール	130,543	358	0.6
23	モロッコ	113,682	311	0.5
24	トルコ	109,441	300	0.5

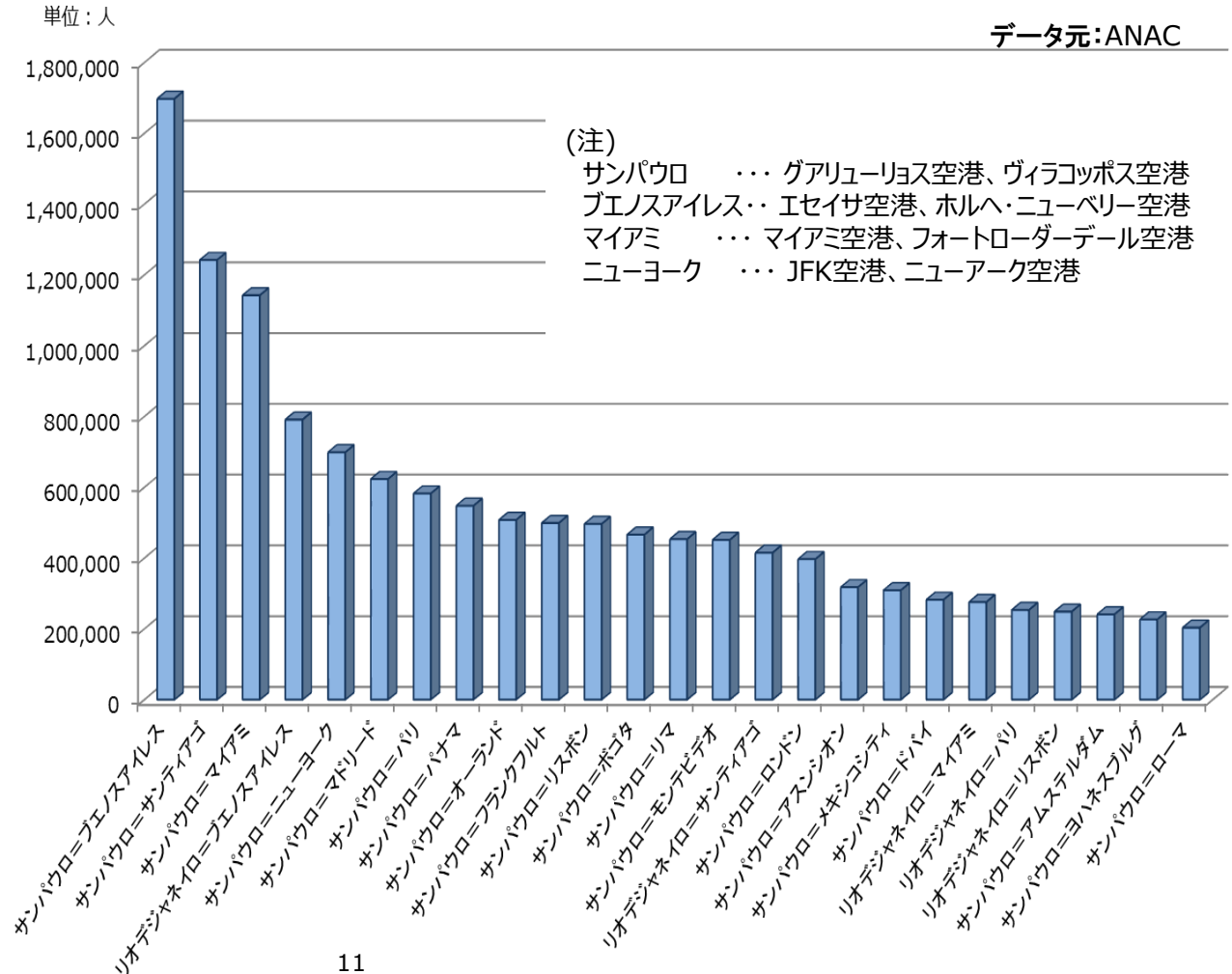




## 参考：国際都市間輸送実績（2017年版・年間20万人以上）

▶サンパウロ=ブエノスアイレス間は、1日当たり4,600人以上が利用しており、南米域内で最大の高需要路線である。

順位	路線	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1	サンパウロ=ブエノスアイレス	1,697,332	4,650
2	サンパウロ=サンティアゴ	1,242,033	3,403
3	サンパウロ=マイアミ	1,142,302	3,130
4	リオデジャネイロ=ブエノスアイレス	791,077	2,167
5	サンパウロ=ニューヨーク	698,868	1,915
6	サンパウロ=マドリッド	623,135	1,707
7	サンパウロ=パリ	582,121	1,595
8	サンパウロ=パナマ	547,684	1,501
9	サンパウロ=オランダ	507,684	1,391
10	サンパウロ=フランクフルト	498,976	1,367
11	サンパウロ=リスボン	496,480	1,360
12	サンパウロ=ボゴタ	466,193	1,277
13	サンパウロ=リマ	453,407	1,242
14	サンパウロ=モンテビデオ	451,429	1,237
15	リオデジャネイロ=サンティアゴ	415,071	1,137
16	サンパウロ=ロンドン	396,841	1,087
17	サンパウロ=アスンシオン	317,663	870
18	サンパウロ=メキシコシティ	309,046	847
19	サンパウロ=ドバイ	282,016	773
20	リオデジャネイロ=マイアミ	275,653	755
21	リオデジャネイロ=パリ	253,310	694
22	リオデジャネイロ=リスボン	248,380	680
23	サンパウロ=アムステルダム	240,820	660
24	サンパウロ=ヨハネスブルグ	226,459	620
25	サンパウロ=ローマ	203,159	557



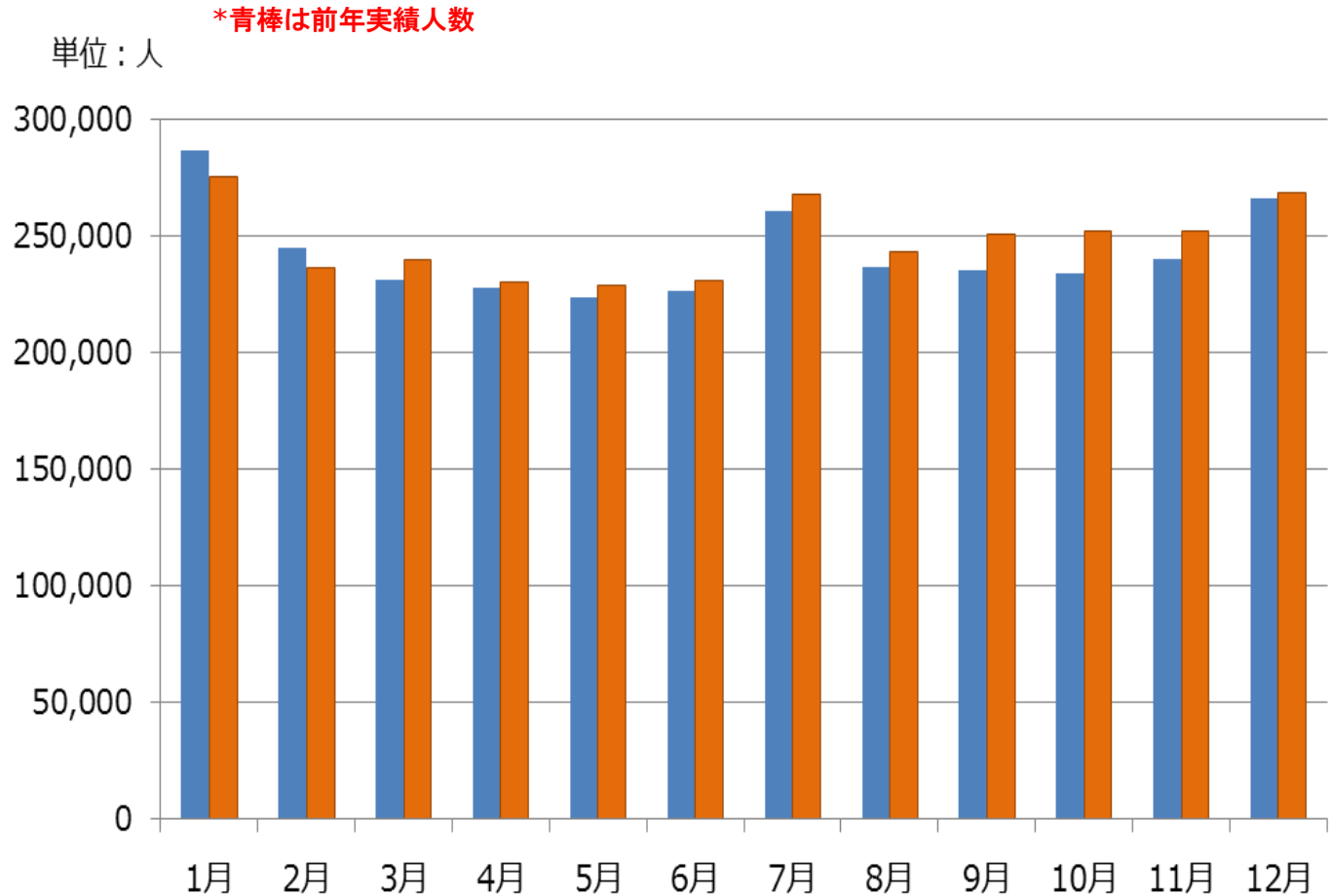


## 参考: ブラジル国内線の月別輸送実績 (2017年版・一日当たり)

- 需要が最も多い月は1月。
- 1-2月は前年割れの実績となったが、3月以降は全ての月で前年実績を上回った。

データ元: ANAC

月	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1月	8,533,614	275,278
2月	6,617,542	236,341
3月	7,443,627	240,117
4月	6,901,154	230,038
5月	7,097,382	228,948
6月	6,922,299	230,743
7月	8,314,623	268,214
8月	7,550,242	243,556
9月	7,523,697	250,790
10月	7,828,448	252,531
11月	7,569,314	252,310
12月	8,332,475	268,790
計	90,634,417	248,313

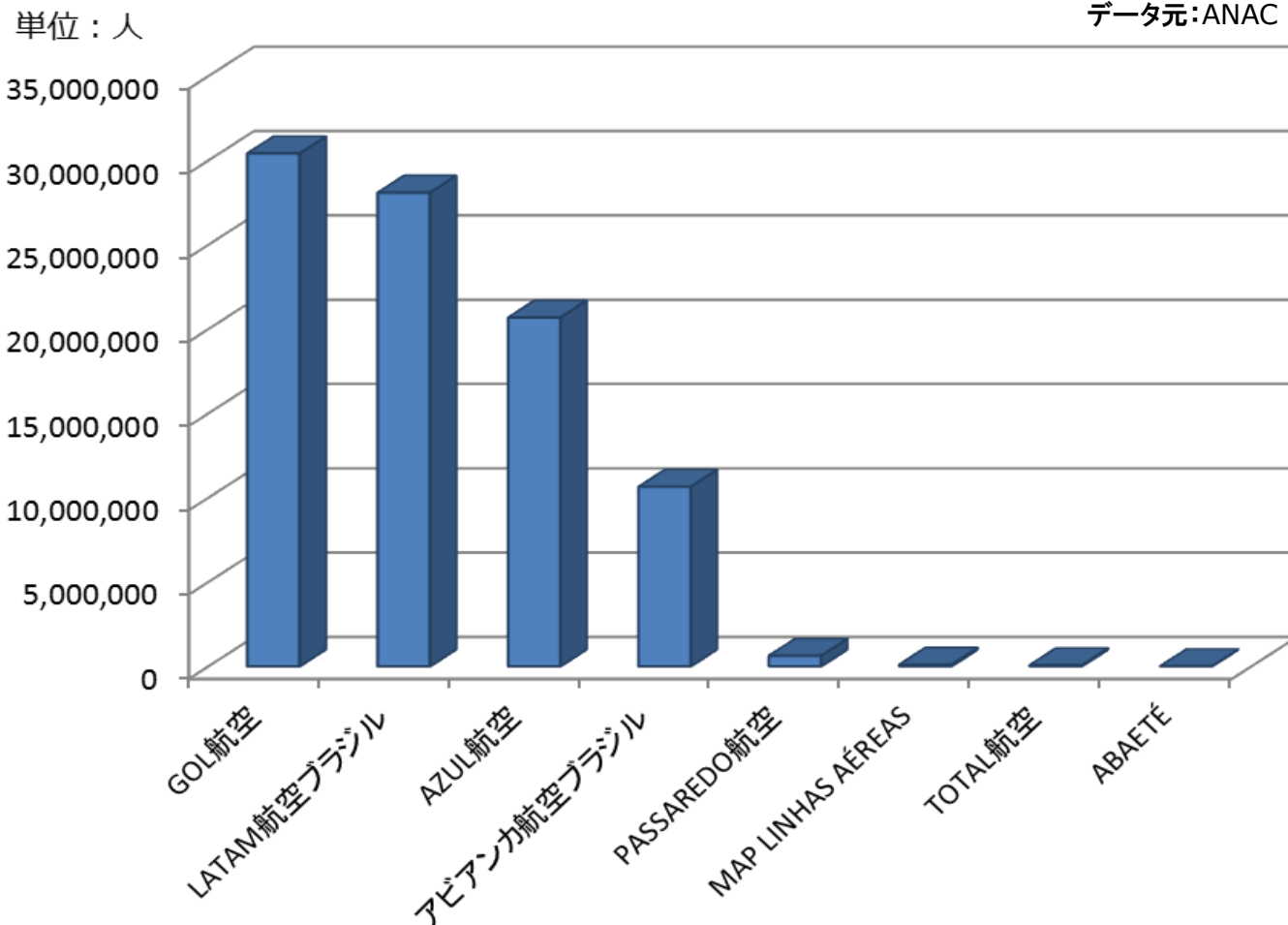




## 参考: ブラジル国内線の会社別輸送実績 (2017年版)

- GOL航空が最も多いが、LATAM航空ブラジルもほぼ拮抗している
- 上位4社以外は、主に地域航空会社と不定期航空会社。

航空会社	有償旅客数 (人)
GOL航空	30,418,577
LATAM航空ブラジル	28,090,818
AZUL航空	20,681,988
アビアンカ航空ブラジル	10,647,510
PASSAREDO航空	625,992
MAP LINHAS AÉREAS	102,796
TOTAL航空	66,332
ABAETÉ	404

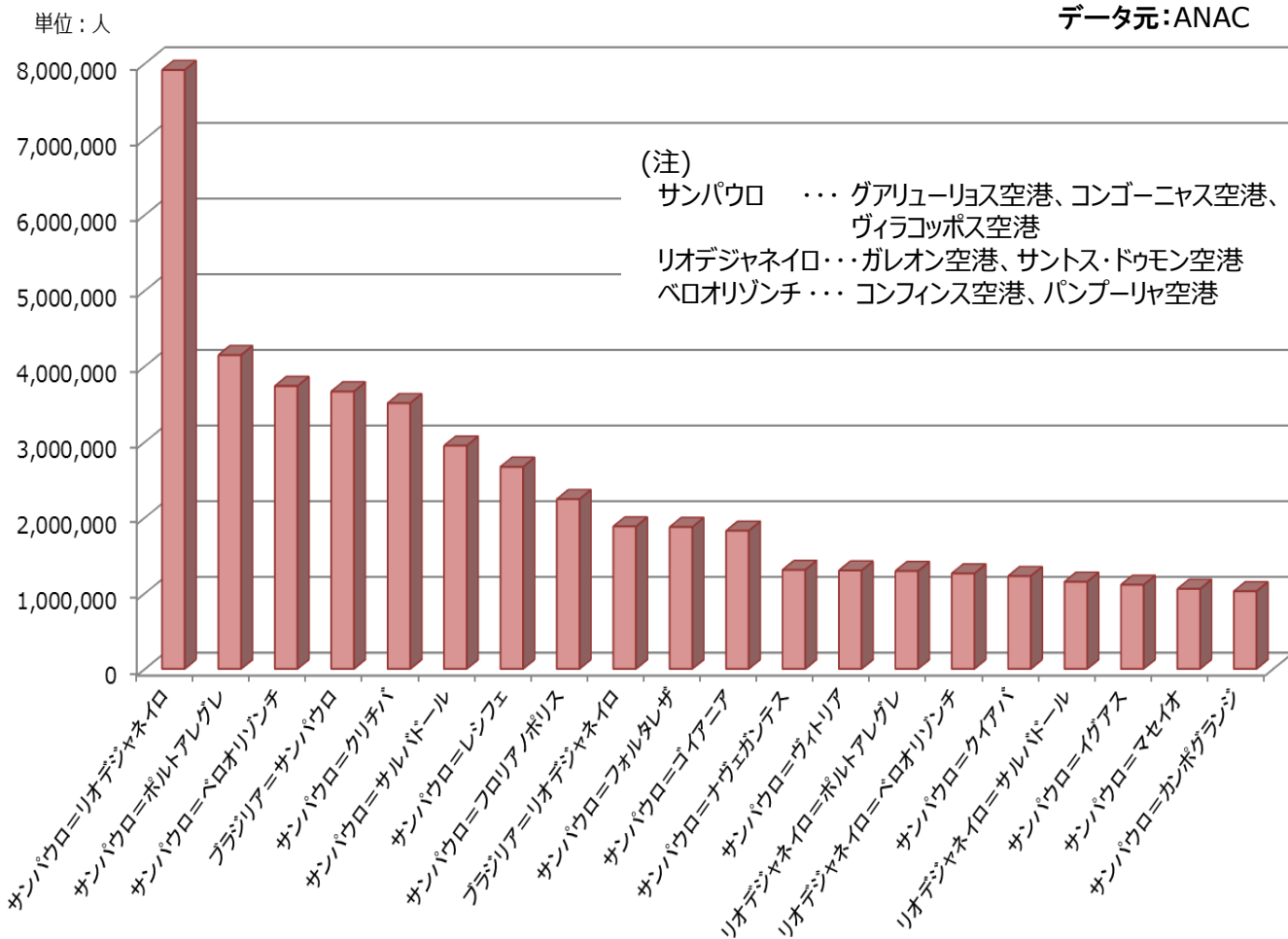




## 参考：国内都市間輸送実績（2017年版・年間100万人以上）

- SP=RJ 間の旅客需要は旺盛。全国内線の8.7%を占め、1日当たりの旅客数は22千人弱
- 上記2都市と、現首都ブラジリア、旧首都サルバドール、ベロオリゾンチ、フォルタレザを結ぶ路線の需要は比較的大きい。

順位	路線	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1	サンパウロ=リオデジャネイロ	7,913,035	21,680
2	サンパウロ=ポルトアレグレ	4,145,976	11,359
3	サンパウロ=ベロオリゾンチ	3,736,700	10,238
4	ブラジリア=サンパウロ	3,664,912	10,041
5	サンパウロ=クリチバ	3,510,510	9,618
6	サンパウロ=サルバドール	2,948,265	8,077
7	サンパウロ=レシフェ	2,668,519	7,311
8	サンパウロ=フオリアノポリス	2,242,897	6,145
9	ブラジリア=リオデジャネイロ	1,880,526	5,152
10	サンパウロ=フォルタレザ	1,873,482	5,133
11	サンパウロ=ゴイアニア	1,822,927	4,994
12	サンパウロ=ナヴェガンテス	1,306,405	3,579
13	サンパウロ=ヴァイトリア	1,298,371	3,557
14	リオデジャネイロ=ポルトアレグレ	1,290,893	3,537
15	リオデジャネイロ=ベロオリゾンチ	1,259,717	3,451
16	サンパウロ=クイアバ	1,225,770	3,358
17	リオデジャネイロ=サルバドール	1,149,827	3,150
18	サンパウロ=イグアス	1,109,986	3,041
19	サンパウロ=マセイオ	1,055,178	2,891
20	サンパウロ=カンボグランジ	1,023,965	2,805





## 旅行 ホテル

# 2017年回顧

	2016年		2017年		前年比	
	売上高 (千)	発券枚数	売上高 (千)	発券枚数	売上高	発券枚数
国内線航空券	R\$ 4,052,426	7,065,583	R\$ 4,454,930	7,394,976	+ 9.9%	+ 4.7%
国際線航空券	R\$ 3,068,082	860,032	R\$ 3,742,105	1,082,002	+ 22.0%	+ 25.8%
ホテル	R\$ 1,955,380		R\$ 1,852,262		▲ 5.3%	

出所: ABRACORP

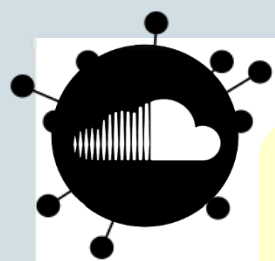
# 2018年展望

長い景気低迷も底を打った兆しが見え、旅行業界は2018年は2017年よりもさらに改善するとを期待したい

- 2018年は平昌で冬季オリンピック・パラリンピック、ロシアでワールドカップと大きな国際イベントがあるが、在伯日系旅行会社にとってはこれらイベントの恩恵を受けることはまったく期待できない。
- 2018年は日系移民110周年。110年記念イベントに参加するため日本政府及び県庁から多数の参加者の来伯が期待される
- 2018年は日本への出稼ぎが2017年をさらに上回り、増加することが見込まれる。
- 日系四世の受け入れについての意見公募が去る2月21日を以て締め切られ、年内に日系四世を対象にした査証発給の新たな基準が定められることが期待される。
- ブラジルの景気が回復基調にあっても日系進出企業の投資拡大はすぐには期待できない中、今年も狭い日系マーケットの中で十数社の旅行代理店が、あまり健全とは言えない条件で顧客争奪戦を繰り広げることで、経営状態はさらに悪化の道をたどることが懸念される。
- 更なる治安悪化、黄熱病の流行などにより、日本から伯国への観光客は引き続き激減することが懸念される。



- **2018年1月12日よりブラジル政府は日本国籍者に対し電子査証 (e-VISA) の発給を開始した。**
- **2017年11月20日に新移民法の施行令第9199号が発布され、新移民法の運用がスタートした。**



## 2017年回顧

- 全体契約者数は、長引く景気低迷の影響に加え、キャリア間の接続料金引下げに伴う複数SIM保有者の減少より、前年度に続き2017年下期で約700万減少。人口に占める普及率は113%。
- **4G契約数に関しては、2017年下期で約4,219万増加。ブラジル市場の43,3%を占める。**17年下期について4Gの契約数が3Gの契約数を超えた。(表A)
- プリペイド加入者が62.8%に減少。

(表A) 携帯電話・モバイル契約者数

項目	2017年下期 [単位:万]	前年比
携帯電話契約数(全体)	23,648	▲3.1%
<b>4G (LTE)</b>	<b>10,230</b>	<b>+70%</b>
3G	8,368	▲42.3%
2G	3,240	▲47.0%
データカード等	1,810	+6%

(表B) M2M用SIM契約数

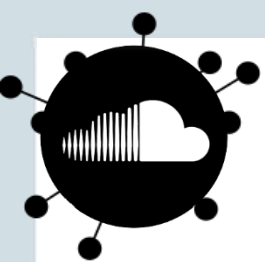
事業者	2015	2016	2017 4Q
Vivo	4,242	5,013	6,321
Claro	4,371	4,476	5,080
TIM	1,261	1,522	1,696
その他	1,458	1,724	2,123
合計	11,333	12,735	15,219

【出典】 Teleco HP <http://www.teleco.com.br>

## 2018年展望

- **IoT(Internet of Things)に関してはVivoを筆頭にM2M用SIMの契約数が順調に増加。(表B)**
- LPWA(Low Power Wide Area) の認可が前年度に予定されていたが、2018年上期に遅れる予定。狭帯域(小データ容量)・低電力化に対応したNB-IoT (Narrow Band IoT) も進み、導入コストが低減されるため、様々な分野でのIoTサービスの普及が見込まれる。
- キャリアビリングの普及が進み、モバイルアプリ課金やモバイル決済サービスの増加が期待される。





## 2017年回顧

- **インターネット普及率： 65.9%（1億3911万ユーザ）**  
 ※合計ユーザ数としては南米1位だが、人口辺りの普及率は周辺国と比べて高くない状況。（表C）
- **ブロードバンドのシェア： NET31.08%、Vivo26.63%、OI22.17%**（2017年11月）  
 ※ブロードバンドシェアは上位3社（Claro,Vivo,Oi）ともに減少しており、その他事業者が台頭してきている。（表D）
- **固定ブロードバンドアクセス数： 2867万アクセス**（2017年12月） ※前年から7.2%の上昇
- **平均通信速度： 6.8Mbps**（2017年3月） ※前年の1.5倍であり、南米諸国では3位。（表E）

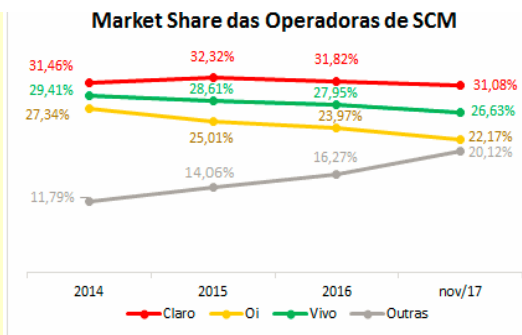
## 通信IT インターネット

（表C）南米各国のインターネット普及率

順位	国名	総人口辺り普及率	合計ユーザ数
1	エクアドル	81.00%	13,471,736
2	アルゼンチン	78.60%	34,785,206
3	チリ	77.00%	14,108,392
4	ウルグアイ	69.40%	2,400,000
5	<b>ブラジル</b>	<b>65.90%</b>	<b>139,111,185</b>
6	ベネズエラ	60.00%	19,155,423
7	コロンビア	58.10%	28,528,124
参考	日本	94.00%	126,045,211

【出典】 IWS HP <http://www.internetworldstats.com/>

（表D）ブロードバンドのマーケットシェア



【出典】 Teleco HP <http://www.teleco.com.br>

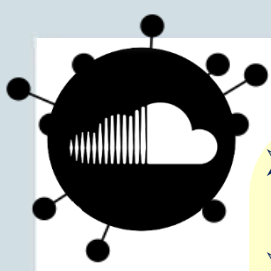
（表E）南米各国の平均通信速度

順位	国名	平均速度(Mbps)
1	ウルグアイ	9.5
2	チリ	9.2
3	<b>ブラジル</b>	<b>6.8</b>
4	アルゼンチン	6.3
5	ペルー	6.2
6	エクアドル	6.2
参考	アメリカ	18.7
参考	日本	20.2

【出典】 Akamai HP <https://www.akamai.com/>

## 2018年展望

- 個人のインターネット利用多角化に加え、ビジネスにおけるインターネット経由でのシステム利用が増加する等引き続き利用者の増加が見込まれる。
- エリア拡大や、ハイスピード回線の提供が継続的に進むことが想定される。
- 既存利用回線のアップグレードを望むユーザが増えていくことが見込まれる。しかし、大容量データ通信への需要増により、帯域の圧迫による回線安定性のさらなる低下が懸念される。



## 2017年回顧

- サンパウロ・ニューヨーク間をつなぐ海底ケーブルSeabras1が9月に運用準備完了。無線通信用人工衛星SDGCの打ち上げ成功など、インフラ面の拡充に繋がる取り組みがあっ
- SaaS（ソフトウェアのクラウドサービス）の発展等、**企業の業務システムのクラウド化、IT業務のアウトソースが更に押し進んだ。**
- タクシー配車アプリの99が中国のDidi Chuxing（ディディチューシン）に買収される。再建中の通信業者Oiの買収にChina Telecom やChina Mobileが意欲を示すなど中国資本の拡大が見受けられた。
- **世界的なランサムウェアの被害を契機に、企業のサイバーセキュリティへの投資が増えた**

(表F) Web攻撃の攻撃先

Target Country	Count
USA	323,185,079
Brazil	28,600,515
Australia	19,115,151
United Kingdom	14,637,260
Germany	10,656,679
Japan	10,098,902

(表G) Web攻撃の攻撃元

Country	Attacks Sourced	Percentage
U.S.	180,627,565	38.70%
Russia	32,164,336	6.90%
Netherlands	31,359,207	6.70%
Ukraine	29,678,769	6.40%
Brazil	28,626,639	6.10%
China	22,046,824	4.70%

【出典】 Akamai HP <https://www.akamai.com/>

※ブラジルはWeb攻撃の攻撃先として世界2位、攻撃元として世界5位（2017年3Q報告）

## 2018年展望

- ブラジルとアルゼンチンを直結する新たな海底ケーブルの竣工など、国際通信インフラの投資の拡大
- クラウドやアウトソーシング（ITO）等、ITプロセスを外部移管する動きは継続して増加
- クラウドの活用増加に伴い、セキュリティやマネジメントサービスへの更なる需要増が見込まれる。
- ITサービス事業者向け高機能データセンタやサーバ、高速インターネットの需要増見込

# いま求められる新たな視点は



## B2B2Xモデル

経済だけでなく文化・スポーツ・芸術等  
様々な分野でのブラジルと日本の交流  
の活発化と相互理解の深化が必要

費用削減や業務効率化の守勢のIT投資だけ  
でなく、新サービスや新ビジネスモデルに  
向けた攻勢のIT投資も重要

ブラジルの悪い点をで  
きない言い訳にせず、  
良い点を見つけて事業  
を創発する努力も必要

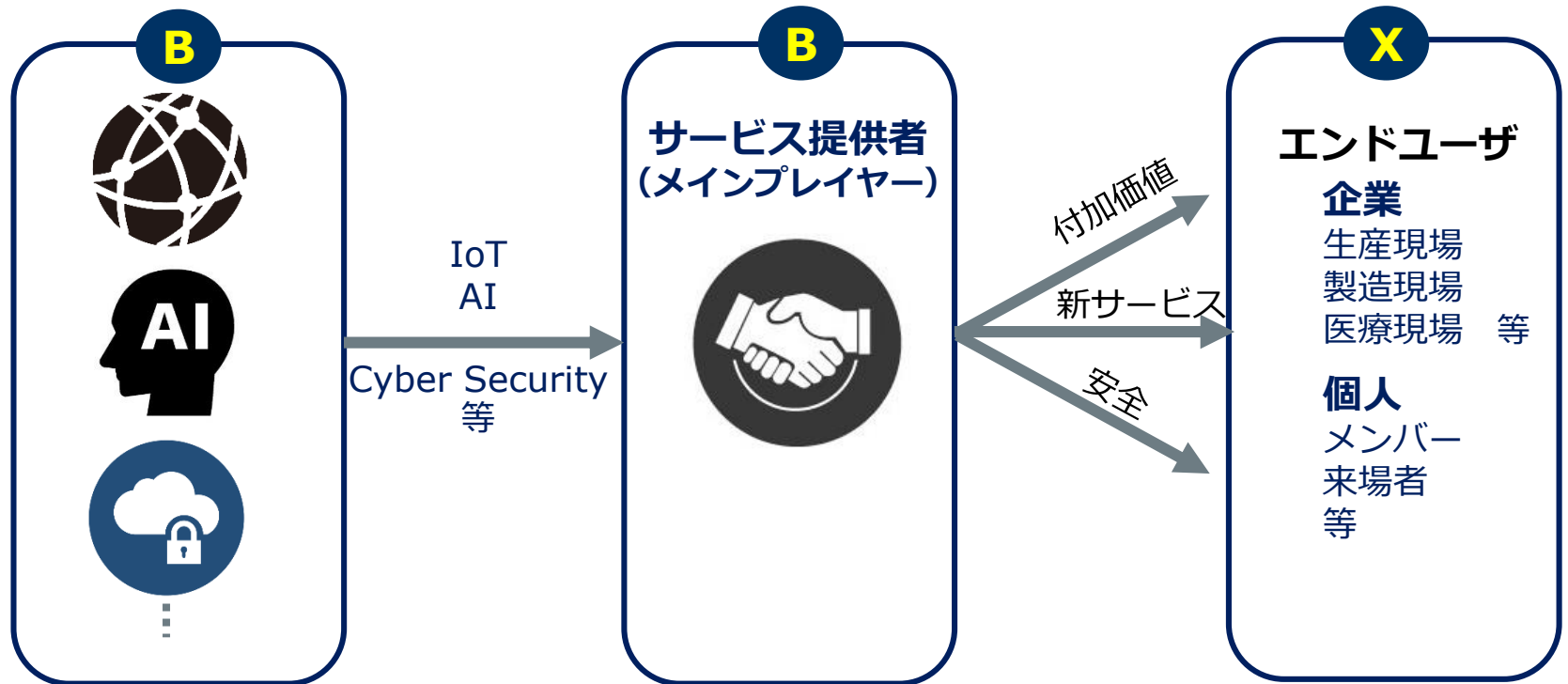
## 現状の打開と新たな価値の創造 市場への需要創造型アプローチ

日系物流関係会社連携で、ブラジル日  
系企業様の工場向け、又は工場から部  
品・製品の一貫輸送等、陸上海上含め  
たパッケージで輸送効率をより高め且つ  
コスト競争力が出るサービスの提供

南米域内（特にアルゼンチン、ウルグ  
アイ）輸送への着目。両国での通関業  
務への取り組みを増やす

# B2B2Xモデル

社会での課題解決やライフスタイルの変革に向けてIoTやAIを活用した取り組み





製造・農業・交通をはじめ幅広い産業分野において、さまざまな企業とのコラボレーションを通じてエンドユーザ（X）に対して新しい付加価値を創生し提供する



ご清聴ありがとうございました

Obbrigado!